



## 事業名 ブランド京野菜のスマート栽培による持続可能な産地づくり



### 取組の概要

舞鶴市は、企業や研究機関、教育機関等と連携を深め、先進技術をまちづくりに積極的に活用することで、日常生活における利便性の向上や都市機能の効率化を実現し、将来にわたり住み続けられるまちづくりを目指しています。

その一環として、官民連携により、IoT 機器を通じたデータ利活用型のスマート万願寺甘とう栽培を実装し、その生産量の安定化・収量向上とともに、担い手の育成・確保に繋げる、持続可能な一次産業の振興を図る取組を行っています。

今後は、水産業や防災分野へのモニタリング技術の活用も進め、大阪・関西万博の目標であるSociety 5.0や市民のよりよい暮らしの実現につなげていきます。

## ブランド野菜のスマート農業

○スマート農業!～万願寺甘とう編～ \「やったあ!」



収穫の多い農家さんと協力して、  
データを集めて、  
他の農家さんと比較・分析…

たくさん  
収穫できた!

舞鶴市は、企業や大学等の多様な主体と連携し、まちづくりに積極的に先進技術を活用することで「先進技術を生かした持続可能なまちづくり」を推進しています。

これまで、主要な産業である一次産業の生産量拡大や高収益化による所得の安定が大きな課題となっていました。この課題を解決するため、まずは、京のブランド産品に認定されているものの、栽培管理が非常に難しい「万願寺甘とう」において、データを活用したスマート栽培を可能とする取組を行うこととしました。

2019年から、KDDI(株)や生産者団体である甘とう部会をはじめ関係団体等との連携の下、相互理解を深めながら、生産現場の実情やデジタル技術の有効性について情報共有や協議を積み重ね、農業分野へのICT/IoT活用を進めております。

## データの見える化・共有



この取組は、高収量生産者の栽培環境である温度や湿度、土壌水量のデータを収集し、見える化・共有することでデータ利活用型のスマート万願寺栽培の実現を目指すものです。

高収量生産者8名のデータを収集する際に使用する機器を同一システムのセンサーに統一することで同一規格でのデータ収集ができ、異なる環境下での生育状況等が容易に比較できるようになりました。

取得したデータは栽培管理システムで共有するなど、アナログな手法も併用することで、データによるスマート農業に、経験に基づく個々のノウハウも反映できています。

収集したデータを活用することでノウハウが共有され、新規就農者や若手の生産者に対してのマニュアルになっています。こうした取組は、生産地全体の底上げやレベルアップに繋がっていると考えます。

## デジタル技術のさらなる応用



将来的には、栽培環境データと収穫量の相関を分析することにより、産地全体の収穫量予測を実現し、流通量の適正管理・価格の安定化につなげることを期待しています。

また、舞鶴茶などブランド力の高い他の農産物への応用・展開や、水産業など一次産業全体の発展にも結びつけたいと考えています。

2023年7月からは、「京のブランド産品」に認定されている「丹後とり貝」の生産現場におけるスマート技術の導入に取り組んでいます。丹後とり貝は、年ごとにその出荷個数(豊凶)にばらつきがあることから、安定した出荷や担い手の確保、養殖のマニュアル化を目指した実証実験としています。

今後も、住民の移動手手段の確保や子育て支援、防災分野など様々な分野でデジタル技術の活用に取り組み、Society 5.0への貢献と、市民のよりよい暮らしの実現につなげていきます。



問い合わせ先:舞鶴市役所(企画政策課)

担当者:西、飛龍

URL:<https://www.city.maizuru.kyoto.jp/>

Mail:[plan@city.maizuru.lg.jp](mailto:plan@city.maizuru.lg.jp)

360°  
EXPO

360°EXPO拡張マップ

京都府舞鶴市

ブランド京野菜のスマート栽培による持続可能な産地づくり